



4

京都市動物園コレクションプラン



コレクションプランとは、動物の保存、繁殖に取り組むために動物を選定、分類し、管理していく計画のことです。

京都市動物園のコレクションプランは、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)のコレクションプラン(JAZA collection plan, JCP)を基に検討し立案しました。本園のこれまでの取組や実績、飼育状況に加え、動物福祉の観点、種の保存への貢献度、教育的価値、学術的価値、展示効果を指標にして選定し、最優先種、優先種、維持種、調整種の4つのカテゴリーに分けて管理していきます。

展示する動物種及び個体数を適正に管理するための見直しは定期的に行っていきます。

最優先種

5種(全飼育種の約4%)

種の保存に貢献でき、特に繁殖を優先する種。



アジアゾウ
EN(IUCN)



ニシゴリラ
CR(IUCN)



グレビーシマウマ
EN(IUCN)



ツシマヤマネコ
CR(環境省)



イチモンジタナゴ
CR(環境省)

優先種

20種(全飼育種の約17%)

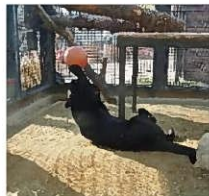
ハズバンドリートレーニング(健康管理のために行う受診動作訓練)計画や動物福祉チェックを通して、持続的な飼育展示を維持するための取組や動物福祉に配慮した取組を評価・検証し、より良い飼育管理及び飼育環境作りに取り組む種。



チンパンジー
EN(IUCN)



マンドリル
VU(IUCN)



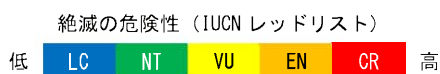
ジャガー
NT(IUCN)



ヤブイヌ
NT(IUCN)



フンボルトペンギン
VU(IUCN)



注1



注2



【コレクションプランにおける飼育動物の分類】

(令和元年(2019)9月末時点)

	哺乳類	鳥類	両性・爬虫類	魚類	計
最優先種	4			1	5
優先種	11	4	5		20
維持種	23	36	31	1	91
調整種	3	2			5

維持種 91種 (全飼育種の約75%)

飼育展示を維持する種。

ショウガラゴ, ニホンツキノワグマ, ブラジルバク, ムササビ, シロフクロウ, エミュー, アオバト等

調整種 5種 (全飼育種の約4%)

個体群の維持管理が困難なことや動物福祉の面から改善が困難で飼育展示の見直しが必要な種。



・ライオン

本来は群れで暮らすライオンを飼育するための十分な広さが確保できないことから、動物福祉に配慮し、令和2年1月に亡くなった個体を最後に飼育展示を中止します。



・オナガゴール

国内で唯一の個体であり、飼育展示の安定的な持続性が保たれないことから、現個体を最後に飼育展示を中止します。



・アカゲザル

飼育園が少なく、多様性を維持するためのオス個体の入替えができず個体群の維持が困難なことから、現個体群を最後に飼育展示を中止します。



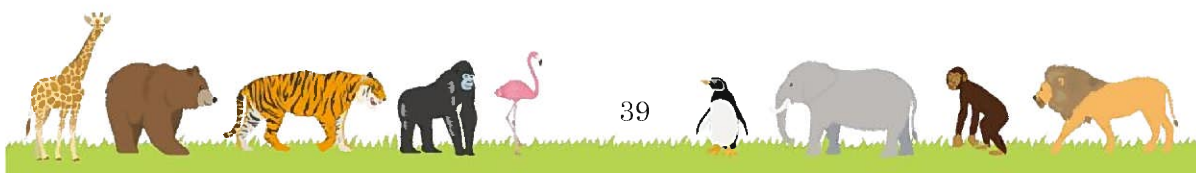
・シロエリオオヅル

タンチョウ舎の一部を仕切り飼育を継続していますが、将来にわたり十分な広さを確保できないことから、引き続き移動先を探します。



・ヒヨドリ

野生鳥獣救護事業の救護対象から外れ導入が困難なため、現個体を最後に飼育展示を中止します。



サルワールドの方針

「サルワールド」は、原始的なサルからヒト科に属する大型類人猿に至るまで多様な霊長類を展示しており、ヒト科との形態的な違いや知的能力の度合い等も含めた比較展示を行っている。「霊長類学の祖」である京都大学と連携している本園にとって、本エリアは連携の顔ともいえるエリアであり、優先種であるニシゴリラの繁殖に取り組むとともに、チンパンジーやマンドリルについて優先種に準じた取組及び動物福祉に配慮した施設整備を進める。

個体群管理の方針

- ・ レッサースローロリス飼育施設の整備及び繁殖可能な個体導入
- ・ ワオキツネザル、フサオマキザル、ショウガラゴの飼育展示継続に向けた取組
- ・ アカゲザルの現個体群の終生飼養
- ・ シロテテナガザルの現有個体の終生飼養

もうじゅうワールドの方針



「もうじゅうワールド」は、正面エントランスから入園する多くの来園者が観覧する最初のエリアである。

このエリアに対する来園者の反応は大きく2つに分かれる。より間近に動物たちを感じられることに対する肯定的な反応と飼育環境の狭さに対する否定的な反応である。近年、「動物福祉」への配慮が大きな潮流となっており、国際的な

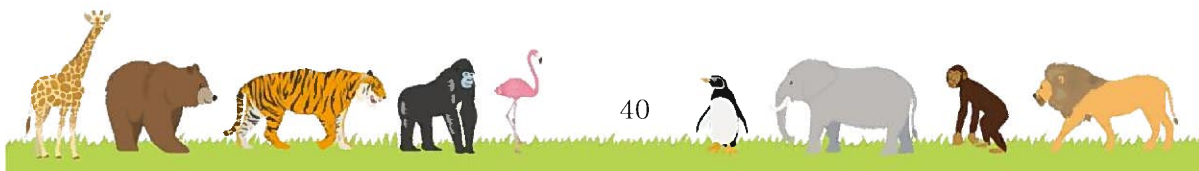
取組を進めていく上では課題である。

こうした状況から、本来は群れで暮らすライオンを、広さに課題がある「もうじゅうワールド」で飼育を継続することは難しく、令和2年1月に亡くなった個体を最後に展示を中止する。なお、日本初の人工哺育に成功した実績については、将来へ受け継いでいく。

「もうじゅうワールド」では、小型から中型のネコ科の飼育展示に変更していく方針とする。

個体群管理の方針

- ・ ツシマヤマネコの展示個体の維持
- ・ ライオンの飼育展示中止
- ・ アムールトラの飼育展示のあり方の検討
- ・ ジャガーの繁殖に向けた取組
- ・ ヨーロッパオオヤマネコ（メス）の導入

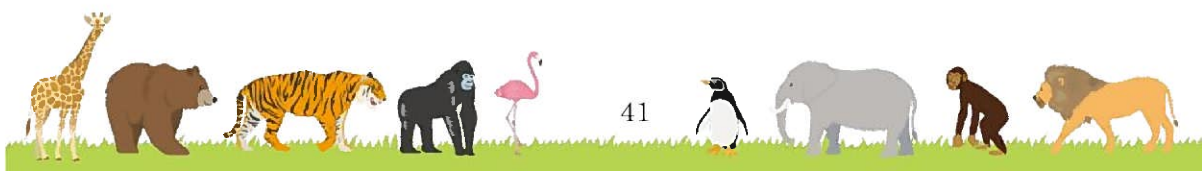


注1 国際自然保護連盟 (IUCN: International Union for Conservation of Nature and Natural Resources) レッドリスト

Critically Endangered (CR)	深刻な危機
Endangered (EN)	危機
Vulnerable (VU)	危急
Near Threatened (NT)	準絶滅危惧
Least Concern (LC)	低懸念

注2 環境省レッドリスト (括弧内は IUCN における分類を示す)

絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種



(参考)「新たな「京都市動物園構想」の策定」検討会議委員名簿

(五十音順, 敬称略)

氏名	職業等
池田 泰子	市民公募委員
今村 礼子	市民公募委員
澤邊 吉信	岡崎自治連合会会長
中道 正之	大阪大学大学院人間科学研究科教授
福井 亘	京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
藤井 容子	京都岡崎魅力づくり推進協議会 魅力情報発信担当マネージャー
本多 和夫	平安神宮 宮司
松本 朱実	動物教材研究所 pocket 主宰 近畿大学非常勤講師・研究員
森村 成樹	京都大学野生動物研究センター特定准教授
◎湯本 貴和	京都大学霊長類研究所教授・所長

◎：座長





発行年月：令和2年2月発行

印刷物番号：313220

発行：京都市文化市民局動物園

住所：〒606-8333 京都市左京区岡崎法勝寺町 岡崎公園内

URL：<https://www5.city.kyoto.jp/zoo/>

